

## トルコ金融政策（2019年10月）

### 2.50%ポイントの大幅な利下げを実施

2019年10月25日

### 3会合連続の大幅な利下げ

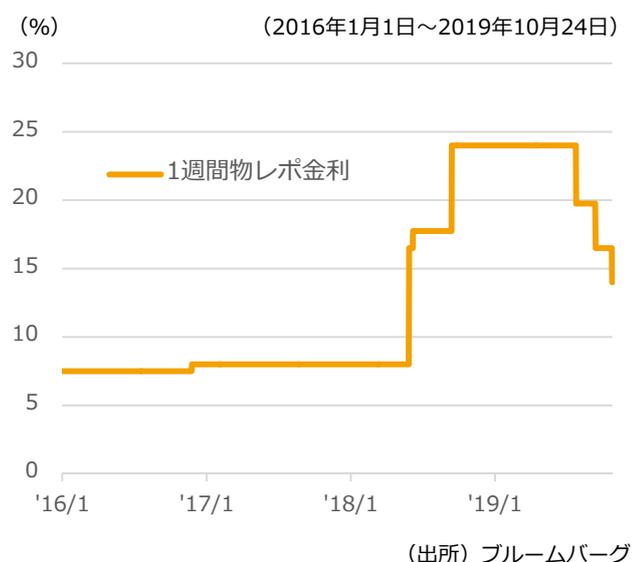
トルコ中央銀行は10月24日（現地）、政策金利（1週間物レポ金利）を16.50%から14.00%に、2.50%ポイント引き下げることと決定しました。市場が予想していた1.00%ポイントの利下げ幅よりも大きな利下げとなったため、発表直後はトルコ・リラは売られたものの、その後は値を戻しつつあります。

前回の会合に引き続き、トルコ中央銀行が利下げを実施した背景には、インフレ率の鈍化が続いていることやエルドアン大統領の利下げ圧力などがあげられます。先日発表された9月のインフレ率は前年比9.26%となり、8月と比較して大幅に低下しました。またトルコ・リラが安定して推移していたこともあり、トルコ中央銀行が追加利下げを実施する環境が整っていました。

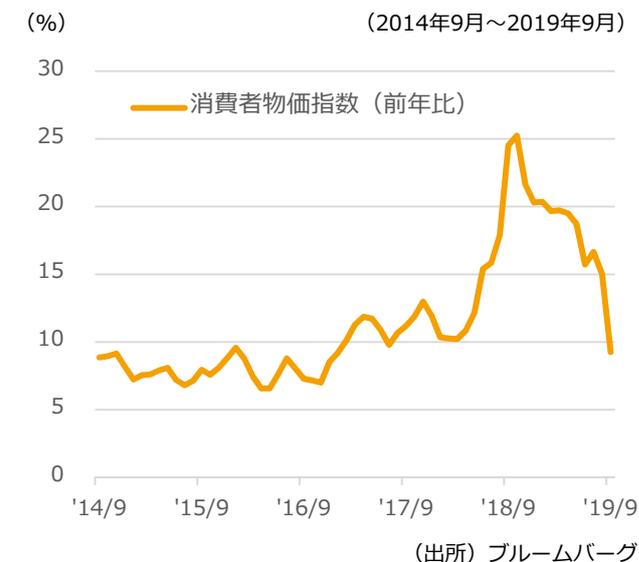
足元、トルコでは地政学リスクがクローズアップされています。10月14日（米国時間）、トランプ米大統領はトルコがシリアへ軍事攻撃をしたことをきっかけに、トルコに経済制裁を科すと発表しました。ただ、その後、トルコがシリア北部への軍事攻撃を停止すると米国と合意したことから経済制裁は取り消されています。また、エルドアン大統領はプーチン露大統領との会談でも軍事作戦の一時停止を事実上延長することで合意しており、シリア情勢をめぐる地政学リスクはいったん後退したとみています。

外部環境については引き続き、米国をはじめ主要先進国・地域で金融緩和期待が高まっているため、相対的に金利の高い新興国市場への資金流入が期待され、トルコ・リラは下支えされると考えています。

#### 政策金利の推移



#### インフレ率の推移



#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡りする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。